

商品別見通し(輸出)

2018年12月5日(水)

品目	2017年度 (実績)		2018年度 (見込み)				2019年度 (見通し)		コメント				
	10億円	伸び率%	上半期		下半期		10億円	伸び率%	伸び率%	2018年度	2019年度		
			(実績)	伸び率%	(見込み)	伸び率%							
総額	79,223	+10.8%	40,358	+5.2%	41,372	+1.3%	81,730	+3.2%	→	82,477	+0.9%	2年連続の増加。 3年連続の増加。	
EX 01 食料品	661	+7.2%	368	+22.1%	416	+15.8%	784	+18.7%	↑	↑	880	+12.3%	日本産品への需要の高まりから輸出数量は各主要品目で増加し、輸出金額は増加する。 日本産品への需要の高まりに加え、政府目標である農林水産物の輸出1兆円に向け、水産物や日本産酒類のプロモーションも相まって数量、価格ともに増加となる見通し。
EX 02 原料品	1,120	+12.0%	578	+5.4%	602	+5.4%	1,180	+5.4%	↑	↑	1,230	+4.2%	鉄スクラップ:国内向けに振り向けられるため数量は伸び悩むが価格は上昇傾向にあり、金額では増加を見込む。 生ゴム:数量、価格ともにほぼ横ばい。 織物用繊維及びびくず:海外生産の動きが今後も続くため数量は減少するが、原油高などを背景に価格は高めの水準を維持。
EX 03 鉱物性燃料	1,122	+14.6%	682	+29.5%	732	+23.0%	1,414	+26.1%	↓	↓	1,289	▲8.8%	原油価格の上昇に伴う価格の上昇により輸出金額が増加。数量については、荷動きの活発化などで軽油の需要は堅調に推移する見通し。 原油価格の伸びの鈍化に伴い輸出金額も伸び悩む。
EX 04 化学製品	8,354	+14.2%	4,379	+9.6%	4,475	+2.7%	8,854	+6.0%	↑	↑	9,150	+3.3%	石油化学製品:車載向けの樹脂材料の需要の高まりから、輸出金額は緩やかに増加する。 精油・香料及び化粧品類:16年度以降、輸出金額が輸入金額を上回る。特に中国向けは、7月に中国が化粧品の輸入関税を引き下げたため、高い伸び率で増加する。全体として、18年度も引き続き好調に推移すると見込まれる。
EX 05 原料別製品	8,811	+10.7%	4,566	+6.5%	4,714	+4.2%	9,281	+5.3%	↑	↑	9,400	+1.3%	国内需要が底堅く推移し数量は17年度比で同水準。世界的な需要の回復により価格が上昇し、金額が増加する。 堅調な国内需要向け供給が優先され数量は微増。価格は18年度より安定し金額がやや増加する。
鉄鋼	3,310	+12.9%	1,707	+6.9%	1,792	+4.6%	3,500	+5.7%	↑	↑	3,570	+2.0%	国内向けの出荷が伸びていることから、相対的に数量は減少。世界全体の需要の堅調さを背景に価格は緩やかに上昇するため、金額は増加する。 国内の生産余力が乏しく、堅調な国内需要向け供給が優先されることにより、数量は微増となる。世界全体の需要は増加する一方、世界需要の半分を占める中国の需要が横ばいとなり価格はわずかな上昇にとどまるため金額は小幅増となる。
非鉄金属	1,442	+13.8%	762	+10.9%	779	+3.2%	1,541	+6.9%	↑	↑	1,613	+4.7%	銅:下半期に汎用品から高付加価値品に生産がシフトする動きがあり国内では高付加価値品の需要の方が高いため輸出数量は減少する。価格は上半期と横ばい。 アルミニウム:台風、地震の影響により数量は減少したが、価格が高止まるため金額は増加する。 銅:数量は18年度比横ばいとなるが、最大消費国である中国の消費が落ち価格が下落するため金額が減少する。 アルミニウム:数量は回復し、価格も上昇するため金額が増加する。
織物用糸・繊維製品	718	+5.3%	362	+2.0%	390	7.6%	753	+4.9%	↑	↑	770	+2.3%	数量、価格ともに17年度並みの伸びが持続。数量は、衣料用の低調を産業資材用の増勢がカバー。EVなど環境対応車向け(リチウム電池の部材など)が主なけん引役。価格は、綿花など原料の価格上昇を転嫁する動きもあり、緩やかな増勢が持続。 緩やかに減速。数量は、米中貿易摩擦の影響などから中国向けを中心に増勢が鈍化。それに伴い価格においても、原料価格上昇を転嫁する動きが一服。もともと、環境対応商材への世界的な需要増が続くため、数量、価格ともに底堅さは維持。
非金属鉱物製品	875	+6.4%	445	+3.0%	467	+5.5%	912	+4.3%	↓	↓	870	▲4.6%	ガラス:自動車などの需要が底堅く、数量増加が寄与して金額は増加する。 セメント:数量は微減するも価格上昇によって金額増加。 ガラス:海外生産のシフトなどを背景に緩やかに金額が減少する見通し。 セメント:引き続き輸出数量は減少するが価格上昇によって金額は増加する。
ゴム製品	887	+7.5%	461	+3.2%	435	▲1.2%	896	+1.0%	↓	↓	861	▲3.9%	6割超を占めるタイヤを中心に増勢が鈍化。タイヤ業界では、主要市場の北米や欧州で新興メーカーの新規工場が相次ぎ稼働し始めたことから、各地で需給に緩み。このもとで、原材料価格の上昇を転嫁する動きが一巡し、市況が軟化。加えて、日本メーカーも需要地生産へのシフトを継続。これらの事情が日本からの輸出を、価格、数量の両面で抑制。 減少に転じる。タイヤ市場で、新興メーカーの新規工場の稼働率上昇に伴い、世界需給がさらに緩和。このもとで、日本からの輸出が一段と抑制。
EX 06 一般機械	16,014	+14.1%	8,215	+6.8%	8,204	▲1.4%	16,419	+2.5%	↓	↓	16,146	▲1.7%	堅調な世界経済を背景にインフラ投資や設備投資が回復し、輸出金額は微増。データセンター関連で好調な半導体需要により半導体製造装置の輸出は、引き続き伸長。 データセンター向けなどに堅調な需要が見込まれる半導体製造装置を中心に下支えするも、米国経済や中国経済が緩やかに減速することから、全体としては需要が減少。
原動機	2,793	+12.7%	1,451	+7.8%	1,621	+12.1%	3,072	+10.0%	↓	↓	2,820	▲8.2%	20年から強化される海洋での排ガス規制などを意識した船舶用内燃機関の新規発注や修繕需要などが見込まれ、輸出金額は増加。 主要輸出先である中国や米国の経済が緩やかに減速するため、需要が微減。
EX 07 電気機器	13,808	+9.9%	7,114	+5.5%	6,970	▲1.3%	14,084	+2.0%	↑	↑	14,220	+1.0%	17年度～18年度前半の高水準から一転して、18年度後半は、スマートフォン関連の需要下振れやNANDの価格下落に伴う在庫調整などにより、各社、設備投資にブレーキをかけ始めている。一方、マイコン・パワー半導体は、依然好調であり、19年度までフル稼働で生産を行っている。また、電子部品の高性能化が進むなか、部品の微細化による電気計測機器需要も増えており、以上のことから17年度比2%の増加を見込む。 17年度～18年度前半の高水準から一転して、18年度後半は、スマートフォン関連の需要下振れやNANDの価格下落に伴う在庫調整などにより、各社、設備投資にブレーキをかけ始めている。一方、マイコン・パワー半導体は、依然好調であり、19年度までフル稼働で生産を行っている。また、電子部品の高性能化が進むなか、部品の微細化による電気計測機器需要も増えており、以上のことから17年度比2%の増加を見込む。
半導体等電子部品	4,040	+9.7%	2,108	+5.2%	2,013	▲1.1%	4,121	+2.0%	↑	↑	4,162	+1.0%	下半期はスマートフォン需要下振れなどにより減速するが、上半期までの需要増により17年度比増加。 スマートフォン需要減、PC・タブレット向けは低水準であるが、自動車電装化、IoTデバイスなど、新用途展開に伴う部品需要増もあり、18年度比微増となる見通し。
電気計測機器	1,610	+11.5%	884	+12.7%	823	▲0.3%	1,707	+6.0%	↑	↑	1,758	+3.0%	下半期は在庫調整・設備投資抑制により減速するが、上半期までの需要増により17年度比増加。 18年後半からの設備投資抑制が前半は継続するが、データセンター向けなどへの投資など、年度後半からの需要増を見込み、18年度比微増。
EX 08 輸送用機器	18,453	+6.3%	9,127	+2.9%	9,867	+3.0%	18,994	+2.9%	↑	↑	19,184	+1.0%	自動車関連は米国などの主力市場が堅調、船舶も環境規制対策や鋼材の値上がりなどで好調、輸送用機器全体で17年度比3%の増加。 自動車関連は米国などの主力市場が停滞、船舶も世界経済減速などで18年度比横ばい、輸送用機器全体でも微増にとどまる。
自動車	12,084	+7.0%	5,904	+2.7%	6,396	+0.9%	12,300	+1.8%	→	→	12,346	+0.4%	中国向けとASEAN向けが好調なものの、主力の米国向けが金利上昇やガソリン高などで減速のため、17年度比で微増。 中国向けとASEAN向けは引き続き堅調ながら、米国向けの減速が続くため、18年度比ほぼ横ばいにとどまる。
自動車の部分品	3,913	+8.3%	2,002	+4.3%	2,073	+4.0%	4,075	+4.1%	↑	↑	4,197	+3.0%	主力の米国向けが金利上昇やガソリン高などで減速も、中国向けとASEAN向けが好調に推移し、17年度比増加。 米国向けは引き続き減速も、中国向けとASEAN向け的好調が続くため、18年度比増加。
船舶	1,262	+2.1%	665	+1.6%	670	+10.2%	1,335	+5.7%	→	→	1,340	+0.4%	船舶は2～4年の受注計画生産ながら、昨今の市況低迷に伴い納期の延期や契約のキャンセルも発生。環境規制対策や鋼材の値上がりもあり価格は上昇に転じているものの、中国を含む世界経済の減速による影響を見込む。 造船市況の回復に加え、20年の環境規制対応による受注を見込むが、世界経済の減速影響を考慮。19年度は18年度とほぼ同水準で推移するとみる。
EX 09 その他	10,882	+12.1%	5,329	▲1.4%	5,391	▲1.5%	10,720	▲1.5%	↑	↑	10,978	+2.4%	減少に転じる。科学光学機器や金の減少が寄与する。 科学光学機器の減少が続くが、世界経済の減速が緩やかなもとで全体では再び増加。
科学光学機器	2,403	+12.6%	1,150	▲3.6%	1,157	▲4.5%	2,307	▲4.0%	→	→	2,291	▲0.7%	スマートフォン需要の一服と、輸出先として4割近い中国の景気減速により減少を見込む。 世界経済、中国経済の減速に合わせ緩やかに減少も18年度並みにとどまる。

*2018年度上半期の実績は確報ベース。金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している